

**自主防災組織等の地域防災の人材育成に関する検討会**  
**(第7回(令和元年度第3回))**  
**議事概要**

1 日時 令和元年12月9日(月) 10:00~12:00

2 場所 ホテルルポール麴町 3階「アメジスト」

3 出席者

【委員】(座長を除き50音順)

室崎益輝座長、吉川肇子委員、黒田洋司委員、西藤公司委員、宗片恵美子委員

※阪本真由美委員、永田宏和委員は欠席(永田委員の代理として小倉丈佳氏出席)

【オブザーバー】

一般財団法人日本防火・防災協会

4 概要

(1) 開会

(2) 議事

① 自主防災組織等のリーダー育成研修教材(案)について、事務局より、資料1~資料4に基づき説明の後、意見交換。概要は以下のとおり。

- 全ての教材の表紙の備考欄に、研修の参加者は会長が多いか、任期は輪番制がおおいか、関わっている期間の長さなどの研修の参加者の特性に応じて、内容のカスタマイズを検討すると更により研修になるという内容を記載してはどうか。
- 全ての教材に共通するが、各単元の研修の時間が60分となっているが、読み上げて説明する部分もあり、またワークショップの時間についても、記載されている時間内で収まるか疑問があり、想定している時間内で収まらないのではないかと。
- 全体の配色について、例えば赤色が使われているが、赤色を視認できない方もいるため、ユニバーサルデザインの基準等で、配色の確認をしたほうがよいのではないかと。
- ワークショップの内容について、全体的にプロセスが丁寧すぎて、参加者から出るアイデアの広がらないような状況が考えられるため、どうやって仲間を増やせばいいかなど、抽象的なテーマで実施してもいいのではないかと。

- ワークショップのプロセスについて、細かい方がワークショップに慣れていない講師には簡単である。みんなで考えるや自由に意見を言うようなワークショップは、受講者は簡単だが、それをまとめる講師にはファシリテーション能力がいるため、使いやすいという視点で見ると、ワークショップ部分はステップを細かくしたほうがよいのではないか。
- 資料1（教材テーマ1）の2限目 p9 の自主防災組織の役割の例について、自分たちの組織だけではなく、他の団体や個人等と協力して活動することもあるため、それが分かる様な役割、例えば協力者を募るといったような内容を記載してはどうか。
- 資料1（教材テーマ1）の2限目 p14 のリーダーとして心掛けたことについて、「仲間に女性を入れよう」とあるが、男性リーダーを想定した記載となっており、男女どちらがリーダーであっても適切に伝わる表現に修正したほうがよいのではないか。
- 資料1（教材テーマ1）の2限目 p21、25 に消防士と記載があるが、現役の消防士では不適切なので、消防士OBと記載した方がよいのではないか。補足説明の中の消防士も消防士OBにした方がよいのではないか。
- 資料1（教材テーマ1）の2限目 p29 の「地域のさまざまな団体との連携・協力」について、補足説明の「女性の会」の活動に「炊出し」と記載があるが、性別による役割分担があるように誤解されるため、削除してはどうか。
- 資料1（教材テーマ1）の3限目の災害への事前の備えを、地域の方々への周知の方法として、具体的な事例を紹介することで、こういうふうにやればいいんだというのがイメージできるのではないかと思うので、具体的な事例や方法（クイズ等）を記載してはどうか。
- 資料2（教材テーマ2）の1限目において、避難判断するタイミングについて、おのおのがそれぞれの災害時の状況に応じて判断を行うマイ・タイムラインや避難スイッチ等の取組が広がりつつあるため、それらの取組を記載してはどうか。
- 資料2（教材テーマ2）の1限目の避難経路のワークショップについて、風水害を取り上げているが、風水害と地震で避難先が異なるため、地震災害時の避難経路のワークショップもあった方がよいのではないか。

- 資料2（教材テーマ2）の1限目の避難経路のワークショップについて、自宅の立地条件が川に近いことや土砂災害警戒地域なのかなどの条件の違いで、どの警戒レベルで避難を始めるかも違ってくるため、ハザードマップで自宅等の立地条件を確認するプロセスがあったほうがよいのではないかな。
- 資料2（教材テーマ2）の補助教材のチェックシートについて、裏面に洪水警報の危険度分布や土砂災害に関するメッシュ情報などの見本を掲載してはどうか。
- 資料2（教材テーマ2）の1限目において、住民の避難について、住民側が情報待ちとなり、避難が遅れることもあるため、情報待ちに陥らないように注意することを記載してはどうか。
- 資料2（教材テーマ2）の1限目 p11 の避難情報の入手方法について、市町村のHPなどの説明に入る前に、一般的な住民にはテレビやNHKのアプリを見るといった段階があるのではないかな。
- 資料2（教材テーマ2）の1限目の避難に関するワークショップの内容について、どんな訓練をやったよいかという内容にすると、いろいろな訓練のアイデアがたくさんあり、参加者も楽しみながらワークショップができるのではないかな。
- 資料2（教材テーマ2）の1限目 p5 に、風水害が発生した後に避難誘導することも想定されるため、それが分かるように修正すべきではないかな。
- 資料2（教材テーマ2）の1限目において、行政の情報は遅れたり、その地域に合わないこともあるので、情報依存にならないように避難スイッチなど独自の判断基準を決めたらよいということを強調してはどうか。
- 資料2（教材テーマ2）の1限目 p8 において、「行政に依存し過ぎることなく」との文言は、特に必要がなければ削除し、「避難をするかどうかを決めるのはあなたです」等の表現に修正してはどうか。
- 資料2（教材テーマ2）の1限目 p11 の「情報の入手方法」について、地域毎に情報の入手方法の状況が異なる可能性があるため、地域でカスタマイズできるようにしてはどうか。

- 資料2（教材テーマ2）の1限目 p12 の警戒レベルについて、令和元年度から導入されているおり知らない方もいるため、令和元年度から導入されたことを記載してはどうか。また、警戒レベルの高低の順序がスライドによって異なっており、違和感があるため、統一すること。
- 資料2（教材テーマ2）の1限目 p16 において、「風水害は発生までにある程度時間があるため、早期の情報伝達や避難などの行動をとり、被害を軽減することが重要です」と記載してあるが、九州北部豪雨等のように時間が無い場合もあるため、風水害で災害発生前までに時間があることは強調しない方がよいのではないか。
- 資料2（教材テーマ2）の2限目の要配慮者の地域ぐるみでの支援体制の中で、自主防災組織は要支援者の名簿や台帳の提供や共有について、個人情報との関係で行政とうまく連携できていないことがあるので、要配慮者名簿の内容について、教材のどこかに盛り込んだ方がよいのではないか。
- 資料2（教材テーマ2）の2限目の「住民の防災意識の向上」について、教材テーマ2よりも、むしろ教材テーマ1の3限目の「自助の重要性と災害への備え」へ移動し、「自助の重要性」の内容を圧縮し、住民の防災意識の向上のところを丁寧に説明する教材としてはどうか。
- 資料2（教材テーマ2）の2限目及び資料3（教材テーマ3）の3限目の「要配慮者とは」について、セクシャルマイノリティの記載があるが、LGBT という言葉が社会的に浸透してきているので、セクシャルマイノリティをLGBTに変更してはどうか。また、LGBTの方はトイレや物資を男女別にされることが困るなど、避難生活で困ることとそれに対する対策を記載してはどうか。
- 資料2（教材テーマ2）の1限目 p8以降、出典の記載がないが、詳しく知りたい人の参考になるように出典を記載してはどうか。
- 資料2（教材テーマ2）及び資料3（教材テーマ3）の要配慮者のワークショップについて、当事者でない方々が話し合うと議論が深まらないことがあるので、過去の災害における当事者の体験談等を紹介してからワークショップを行うほうが効果的ではないか。

- 資料3（教材テーマ3）について、阪本委員が実際の避難所の実態の知見が豊富のため、阪本委員とよく相談したほうがよい。
  - 資料3（教材テーマ3）の1限目 p6 に、避難所と福祉避難所の説明があるが、誰でもかれても避難所で受け入れるという誤解を生じないように、福祉避難所で受け入れるべき避難者はどのような人なのかを記載してはどうか。
  - 資料3（教材テーマ3）について、地域の全員が避難すると、避難所に様々な空間を取ることが困難な場合もあり、コミュニティによって必要なスペースや食事・ルール等も異なるため、コミュニティで決めることが重要であることを記載してはどうか。
  - 資料3（教材テーマ3）の1限目 p9 の「避難所運営の担い手」について、補足説明の「避難者」に、女性についての記述があるが少し誤解が生じると思うので削除し、防災組織には女性の参画が必要であることを記載した方がいいのではないかと。
- ② 研修教材（案）を活用した研修会の実施について、事務局より、資料5、参考資料に基づき説明の後、意見交換。概要は以下のとおり。

- 栃木県での研修会は、受講者が市町村の自主防災組織担当者とのことだが、本来の研修対象者である自主防災組織ではないため、栃木県の研修では、そのまま教材を使って住民向けの研修をやってみるのか、このような教材を参加された市町村の職員に自分の地域で使用してほしいと考えているがどうかと説明するのか、どちらの方針かをご教示頂きたい。

【 今回の教材を自分の地域で使用する場合にどうかという趣旨でご講義頂きたい。 】

- 研修のはじめに、消防庁がなぜこのような教材を作成しているかという趣旨を研修会の参加者にご説明頂きたい。

【 承知した。栃木県での研修会は、市町村職員向けということ念頭に置いた構成としたい。 】

- 近年大規模な災害が発生している中で、住民が少しでも早く逃げてもらい必要があり、そのためには自主防災組織の活性化が必要で、いろいろな教材等を用いて住民の皆さんにアプローチしていく必要があるという思いでこのような教材を作ったという思いを、研修

のはじめに伝えていただくと、受講する方もよく理解して参加してもらえないのではないか。

- いい教材を作ろうと思うと、この委員会の中の意見では十分とは言えず、現場で使っている人や悩んでいる人の意見も酌み上げる必要があり、この研修会においてアンケート等で現場の意見を汲み上げ、教材に反映させることは重要である。
- 今回の研修会は4つの地域が希望してくれているが、これから自分たちの地域で自主防災組織を活性化していきたいというような狙いがあるって希望してくれたのか等の理由は把握しているか。

4つの地域は、それぞれの地域の自主防災組織の活性化を促していきたいという思いは共通しており、それを前提としたうえで積極的に研修会に申し出ていただいとご理解頂きたい。

### (3) その他

次回検討会の開催は3月を予定。

以上